

Requested Patent: JP6085838A  
Title: ELECTRONIC MAIL DEVICE ;  
Abstracted Patent: JP6085838 ;  
Publication Date: 1994-03-25 ;  
Inventor(s): OURA MASAHIKO ;  
Applicant(s): FUJITSU LTD ;  
Application Number: JP19920236605 19920904 ;  
Priority Number(s): ;

IPC Classification: H04L12/54; H04L12/58; G06F13/00 ;  
Equivalents: ;

#### ABSTRACT:

PURPOSE:To attain the handling of a confidential mail by devising the device to select a mail destination to a destination mail box or a mail box of a forwarding destination when the forwarding of destination is set.

CONSTITUTION:A mail transfer section 11 receives a destination of a mail from a mail sender. A mail transfer destination selection section 12 references a forwarding table 13 in which a forwarding destination is set and selects a destination main box 14 when no forwarding is set to send the mail to the box 14, and when the forwarding is set, a message representing the setting is displayed to information processing units 18,19 to urge the operator for the selection as to whether the mail is sent to the box 14 or a forwarding mail box 15. When a destination forwarding selection section 16 by the selection of the operator is used to select the destination, a destination incoming communication section 17 sends a mail informing the transmission of the mail designated by the destination to the box 15 being the forwarding destination and the mail text is sent to the box 14. On the other hand, when the selection section 16 selects the forwarding destination, the mail is sent to the box 15.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-85838

(43)公開日 平成6年(1994)3月25日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 04 L 12/54				
12/58				
G 06 F 13/00	3 5 1 G 7368-5B	8529-5K	H 04 L 11/20	1 0 1 B

審査請求 未請求 請求項の数2(全7頁)

(21)出願番号	特願平4-236605	(71)出願人	000005223 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地
(22)出願日	平成4年(1992)9月4日	(72)発明者	大浦 雅彦 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内

(74)代理人 弁理士 宮内 佐一郎 (外1名)

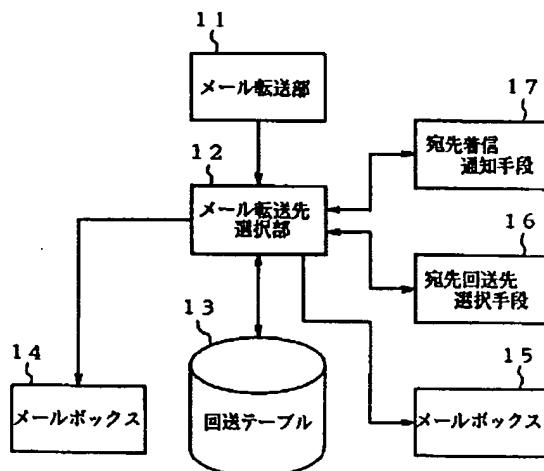
(54)【発明の名称】電子メール装置

(57)【要約】

【目的】電子メール装置に関し、親展メールを扱うことを目的とする。

【構成】送信されてきたメールを回送テーブル13を参照して予め登録しておいた回送先をメール転送先選択部12で選択して自動的に回送する電子メール装置において、宛先がメールの回送設定を行っているときメールの送信先を宛先のメールボックス14にするか回送先のメールボックス15にするかを選択する宛先回送先選択手段16を設けた。

本発明の原理説明図



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】送信されてきたメールを回送テーブル(13)を参照して予め登録しておいた回送先をメール転送先選択部(12)で選択して自動的に回送する電子メール装置において、宛先がメールの回送設定を行っているときメールの送信先を宛先のメールボックス(14)にするか回送先のメールボックス(15)にするかを選択する宛先回送先選択手段(16)を設けたことを特徴とする電子メール装置。

【請求項2】前記宛先回送先選択手段(16)により宛先のメールボックス(14)が選択されたときに宛先着信通知を回送先のメールボックス(15)に送る宛先着信通知手段(17)を設けたことを特徴とする請求項1の電子メール装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、電子メール装置に関する。電子メール装置の中には、予め登録しておいた回送先に電子メールを転送する回送機能を備えたものがある。この回送機能により、長期出張などで電子メールの受信操作を行うことができないときに、自分宛にきた電子メール全ての受信操作を予め登録しておいた回送先の人に代行してもらうことができる。

【0002】この回送機能では、全ての電子メールが回送先に転送されてしまうため、親展メールを扱うことができない。したがって、親展メールを扱うことが電子メール装置の開発が必要である。

## 【0003】

【従来の技術】従来の回送機能を有する電子メール装置としては、例えば図5に示すようなものがある。図5において、1はパソコン通信を行う情報処理装置であり、メール送信操作者がメールの送信を行うときは、情報処理装置1に宛先と文書を入力する。

【0004】宛先は、電子メール装置2のメール転送部3で受信され、メール転送先選択部4に送られる。メール転送先選択部4は、回送テーブル5を参照し、宛先が回送設定されているときは、宛先のメールボックス6ではなく、回送先のメールボックス7に文書のメールを送る。回送先の代行操作者は、情報処理装置8を用いて、受信操作を行うことにより、メールボックス7からメールを受信する。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、このような従来の電子メール装置にあっては、メールの内容によっては送信相手本人以外には読んでもらいたくないような場合があり、回送を設定してしまうと全ての電子メールが回送先に転送されてしまう自動回送機能では、親展メールを扱うことができないという問題点があった。

## 【0006】本発明は、このような従来の問題点に鑑み

てなされたものであって、親展メールを扱うことができる電子メール装置を提供することを目的としている。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】図1は本発明の原理説明図である。本発明は、送信されてきたメールを回送テーブル13を参照して予め登録しておいた回送先をメール転送先選択部12で選択して自動的に回送する電子メール装置を対象とし、宛先がメールの回送設定を行っているときメールの送信先を宛先のメールボックス14にするか回送先のメールボックス15にするかを選択する宛先回送先選択手段16を設けたことを特徴とする。

【0008】また、本発明は、前記宛先回送先選択手段16により宛先のメールボックス14が選択されたときに宛先着信通知を回送先のメールボックス15に送る宛先着信通知手段17を設けたことを特徴とする。

## 【0009】

【作用】このような構成を備えた本発明の電子メール装置によれば、宛先の回送設定が行われているとき、メールの送信先を宛先のメールボックスにするか回送先のメールボックスにするか選択することができるため、メールの内容によっては送信相手以外には読んでもらいたくないような場合宛先のメールボックスにメールを送ることができる。その結果、いわゆる親展のメールの扱いをすることができる。

【0010】また、宛先が回送設定されている場合、宛先を選択したときは、宛先着信通知を回送先のメールボックスに送るので、送信相手は、回送先で宛先にメールがあったことを知ることができる。

## 【0011】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。図2～図4は本発明の一実施例を示す図である。まず、構成を説明すると、図2において、11はメール転送部であり、メール転送部11はメール送信操作者からメール宛先を受けとると、メール転送先選択部12に送る。

【0012】メール転送先選択部12は、宛先を受けとると、回送テーブル13を参照して、宛先が回送設定しているか調べて、回送設定している場合には、宛先のメールボックス14から回送先のメールボックス15にメールを送る。メールボックス14、15はユーザのためには設けられるものであって、ここでは、14を宛先のメールボックス、15を回送先のメールボックスとする。

【0013】回送テーブル13には、宛先に対応した回送先が格納されている。メール転送先選択部12は回送テーブル13を調べて、回送設定されているときは、回送先を取り出して、回送先のメールボックス15にメールを送る。16は宛先回送先選択手段としての宛先回送先選択部であり、宛先回送先選択部16は回送設定されている場合、メール送信操作者の選択により、回送先のメールボックス15にメールを送るか、または、宛先の

メールボックス15に送るかを選択する。送信するメールが送信相手本人に読んでもらいたいメールの場合、いわゆる親展メール扱いをしたい場合には、宛先が選択される。

【0014】17は宛先着信通知手段としての宛先着信通知部であり、宛先着信通知部17は、宛先を選択したとき、宛先着信通知を回送先のメールボックス15に送る。18、19はパソコン通信を行う情報処理装置であり、メール送信受信操作者は、これらの情報処理装置18、19を用いて、メールの送信操作またはメールの受信操作を行う。なお、20は電子メール装置を示す。

【0015】次に、図3に電子装置におけるメール送信操作例を示す。図3において、aaaは宛先を示し、bbbは回送先を示す。ここでは、宛先aaaへのメールは回送先bbbに回送設定されている。図中の下線部はメール送信操作者の入力コマンドであり、他は電子メール装置20が 출력するメッセージである。メッセージは情報処理装置18、19の表示部に表示される。

【0016】次に、動作を説明する。図4は本実施例の動作を示すフローチャートである。まず、ステップS1でメール転送部11は、メール送信操作者からメールの宛先を受け取る。次に、ステップS2でメール転送先選択部12は、宛先が回送設定されているか回送テーブル13を参照し、回送設定されていない場合には、ステップS3で通常と同様に宛先のメールボックス14を選択して、宛先のメールボックス14にメールを送る。

【0017】回送設定されているときは、ステップS4で宛先が回送先に回送設定されていることを示すメッセージを情報処理装置18、19の表示部に表示し、メール送信操作者にメールを宛先のメールボックス14に送るか、または、回送先のメールボックス15に送るかの選択を促す。次に、メール送信操作者の選択により、宛先回送先選択部16により宛先を選択したときは、ステップS5で宛先着信通知部17により、宛先指定のメー

ルが送られてきたことを知らせるメールを回送先のメールボックス15に送り、メール本文はステップS3で宛先のメールボックス14に送る。

【0018】一方、メール送信操作者の選択により、宛先回送先選択部16が回送先を選択したときは、ステップS6で回送先のメールボックス15にメールを送る。このように、宛先が回送設定されている場合でも、送信相手本人に読んでもらいたいメールは、回送先でなく宛先にメールを送ることができ、また、回送先には宛先着信通知を行うことができるので、いわゆる親展メールの扱いをすることができる。

【0019】

【発明の効果】以上説明してきたように、本発明によれば、宛先が回送設定されている場合でも、メールの宛先と回送先を選択することができるため、送信相手本人に読んでもらいたいメールは回送先でなく宛先のメールボックスに送ることができ、いわゆる親展メールの扱いをすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の原理説明図

【図2】本発明の一実施例を示すブロック図

【図3】操作例を示す図

【図4】フローチャート

【図5】従来例を示す図

【符号の説明】

11：メール転送部

12：メール転送先選択部

13：回送テーブル

14、15：メールボックス

16：宛先回送先選択部（宛先回送先選択手段）

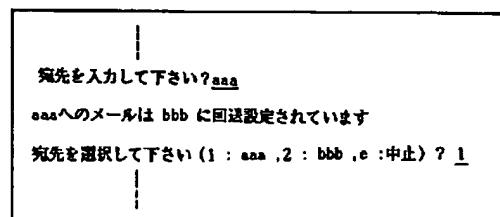
17：宛先着信通知部（宛先着信通知手段）

18、19：情報処理装置

20：電子メール装置

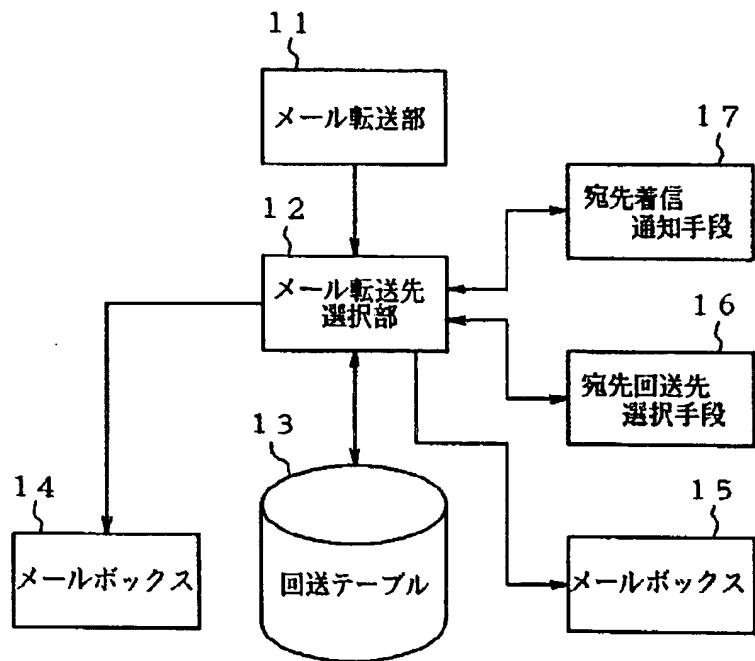
【図3】

操作例を示す図



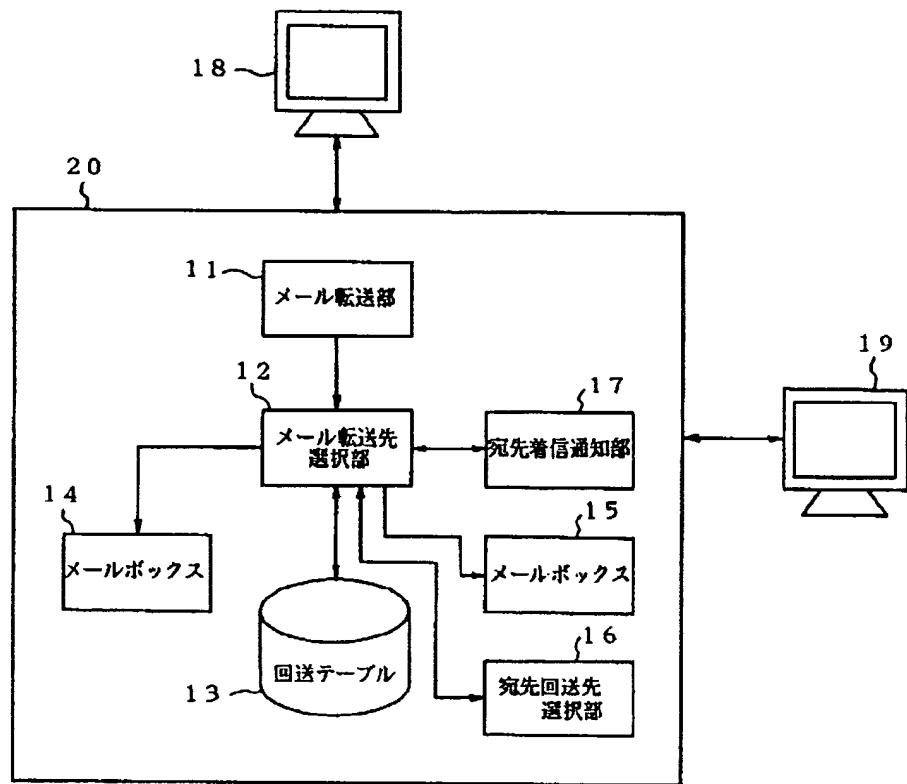
【図1】

## 本発明の原理説明図



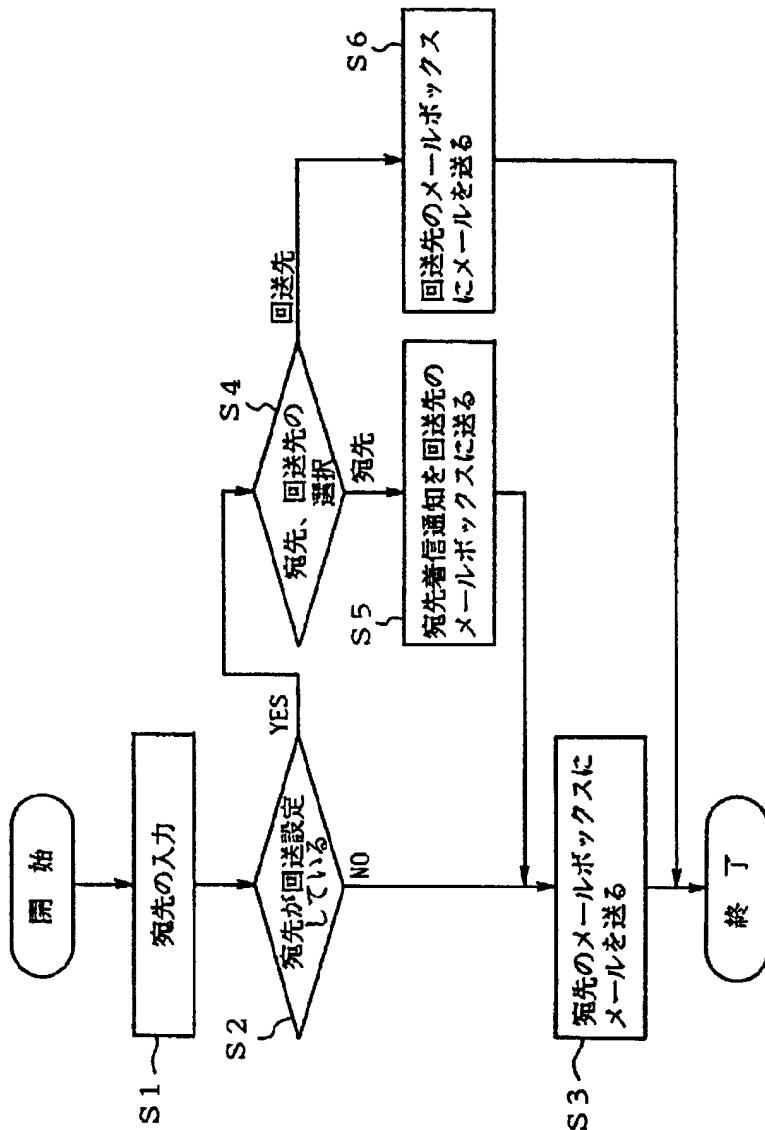
【図2】

本発明の一実施例を示すブロック図



【図4】

フローチャート



【図5】

従来例を示す図

